

# 新風

発行 神石高原町議会議員

## 木野山孝志 後援会

令和元年 7月15日 NO.52

発行責任者：橋迫芳隆

神石高原町父木野2953-1

ホームページ <http://www7a.biglobe.ne.jp/~t-kinoyama/>

## 6月定例会

挑戦のまち神石高原町

「消滅危機をドローンで飛び越えろ」事業に予算措置

過疎地域活性化推進交付金を活用

6月定例会は12日から20日まで開かれ、令和元年度各会計補正予算、条例の一部改正など62議案を審議し、原案のとおり可決・承認しました。また繰越明許費繰越計算書、平成30年度各第3セクター経営状況の報告がありました。

6月補正予算は表（総括表は次ページ）のとおりです。合計で2億1987万円の増額補正となりました。

### 企業誘致促進に追加補正

町は国の過疎地域自立活性化推進交付金を活用し、「挑戦のまち神石高原町 消滅危機をドローンで飛び越えろ！」事業、油木地区仙養活性化プランを、油木支援センターを運営主体として実施します。

ドローンコンソーシアム（共同事業体）を設立し、ドローンを活用した防災・災害緊急対応、高齢者生活支援、集落間ネットワーク構築、農産物集荷支援、地域管制システム（単

蒼空マップ作製）などドロー

ンの活用で仙養集落の活性化を目指すし、最終的には企業誘致促進にも結び付ける予定です。2千万円を追加補正しました。

また、誘致促進事業927万円の内、地域おこし協力隊分446万円を協力隊に応募者がなかったため「地域おこし企業人制度」活用事業に切替えました。

### 町紹介PR事業マイナス補正

費用対効果が疑問視されたため、一部事業を見直しました。

トラックラッピング、月間タウン誌、政策提言イラスト作成に関する171万円を減額補正しました。プレミアム年賀ハガキ、東京まるごとっぽんブース活用は実施されず。

令和元年6月補正（一般会計）

（単位：万円）四捨五入

費目	補正予算	補正後予算	主な内容
議会費		8319	
総務費	3604	23億8618	財政管理242、地域おこし企業人・仙養ドローン2000、町紹介・PR▲171、坂瀬川区民会館裏594、プレミアム商品券232、賦課徴収経費424
民生費	1670	18億6891	ルシー・ファミリーさんわ240、介護保険会計繰出し1053
衛生費	594	12億5754	予防接種事業453、保健福祉センター65
農林水産費	-▲1471	9億9915	神石肥育センター管理1054、地籍調査▲2891
商工費	158	1億1024	スコラ高原帝釈の湯135
土木費	4609	4億3698	町道維持補修500、神石殿敷住宅水源4109
消防費	48	4億4665	屯所補習43、防災5
教育費	325	7億5518	スクールバス135、三和共同調理場86
災害復旧費	465	144017	過年度発生林道260、過年度発生道路橋梁205
公債費		12億9587	
諸支出金	6348	4億4344	保健医療福祉支援基金積立285、かがやきネット管理運営基金積立5000、医療従事者確保基金積立1060
予備費		4000	
合計	1億6350	115億6350	

# なにがどうなる

条例改正など

## おもなもの

＜使用料・手数料など条例の一部改正＞

○消費税率の改定に伴い使用料・手数料が改正されました。

\*消費税が10月1日から10%に改定される予定となりました。それに対応するために町有財産の使用料や手数料を改正しました。以下の通り、それぞれの案件を考慮し対応されています。

- ①消費税率のみ改定するもの
- ②改定は行わず、据え置くもの
- ③消費税率の改定にかかわらず引き上げるもの
- ④消費税率の改定にかかわらず引き下げるもの
- ⑤政策的な判断で改定するもの

個別料金など詳しくは、町公報など町からの公報をご参照ください。

ちなみに、町指定ごみ袋は、改定を行わず据え置かれます。

＜がんばる神石高原町ふるさと応援条例の一部改正＞

○ふるさと納税に於ける寄付者の支援項目に、ふれあいタクシー事業を加えるもの。

＜町立病院設置管理条例の一部改正＞

○診療科目の「呼吸器内科」を「リウマチ・膠原病科」に変更する。(患者さんに分かり易い表記とした。)

＜工事請負契約の締結＞

○三和中学校改修工事（請負金額・118,260,000円／請負者・村上建設株式会社）

○神石高原町庁舎・病院敷地造成工事（請負金額・372,600,000円／請負者・児玉建設株式会社）

## 平成31年・令和元年度予算会計別総括表

単位：万円(四捨五入)

会計名	H31年度	令和元年度		適用	
	当初予算額	6月補正額	6月補正後予算額		
一般会計	114億0000	1億6350	1,15億6,350		
特別会計	国民健康保険	9億4980	466	9億5,446	国保財調積立466
	後期高齢者医療	3億7920	85	3億8,005	一般会計繰出金96
	介護保険	18億1440	4136	18億5,576	介護基金積立1625、 積算返納2508
	簡易水道事業	2億3170	500	2億3,670	施設修繕500
	飲料水供設事業	3930	150	4,080	施設修繕150
	農業集落排水事業	2億3220	300	2億3,520	施設修繕300
	分収育林事業	10		10	
	総合開発事	60		60	
	特別会計計	36億4730	5637	37億0,367	
病院事業会計	5億1434		5億1,434		
合計	155億6164	2億1987	157億8151		
特別会計+病院事業会計	41億6164	5637	42億1,801		

平成30年度事業で、令和元年度に繰越されるもの(主なもの)  
 ・くるみ保育所改修整備 1億8467万円  
 ・i82ステーション改築 3億522万円

平成30年度繰越額が確定  
 ・7億5620万8320円  
 ・校舎ブロック塀冷暖設備設置 1億1034万円  
 ・現年発生農地農業施設災害復旧 3億9773万円

# 第三セクター奮戦中 平成30年度決算

平成30年度第3セクターの決算報告がありました。

182ステーションを除き、全て売上高が減少しています。

(株)スコラを除き、全て黒字決算となりました。

さんわ182ステーション売上明細表		単位:万円
		売上
市場売上高		3億0,486
売店売上高		2,221
軽食売上高		812
自販機売上高		282
その他売上高		161
ローソン売上高		1億4,752
加工品売上高		299
合計		4億9,013

## さんわ182ステーション

年間を通し来客数44万1481人(1%)総売上高4億9013万円と昨年度を上回った。

食堂を業務委託している「高原の風」の来客数は2万8693人で前年度対比4%増。油木百彩館支店は10月からの年度途中での経営となったが売上は減少傾向。ローソン部門の売上は昨年に引き続き435万円(約3%)増を確保した。

指定管理料収入約502万円。他に、特定役員報酬として町からの特別補助金が612万円ある。ローソンについては、7年を経過し、経営収支は、少しずつ改善しています。が、地域性、冬季の道路条件、フロンチャイス店での店舗展開など、問題、課題は開店初年度とあまり変わり無く経営は厳しい。30年度は225万円の損失となった。

「リニューアル」は町長の公約で、今年度中に改修予定ですが、フードコート運営、百彩館支店の運営、農生産物の確保体制など課題は山積みです。(一般質問を参照してください。)

## 百彩館

30年9月30日で指定管理者の(有)油木特産販売が解散し、以降(有)さんわ182ステーションの管理となった。

売上は半期で3485万円、税引き前利益174万円を計上した。資本金935万円(187株分)に対し、29年度末繰越利益剰余金▲315万円、民間株返却額▲460万円(92株分)、プラス分当期純利益171万円、精算処理費▲305万円。差引き26万円余りを一

## 農業公社

一般会計に繰入れました。町は出資金475万円(95株)を債権放棄しました。

10月以降は、売上増を目指し、地元産品中心の販売に切り替えたが思うような成果が上がっていない。調整事業・農林支援事業を除き他の8事業とも収入が増加した。税引き前26・8万円の黒字。売上高は7399万円(微減)。トマト工房の売上減が要因。補助金収入は1611万円。

## スコラ

7月の西日本豪雨災害の影響で14団体のキャンセル、また12月〜4月末までの帝釈の湯改装工事により大浴場が使用できず大学生合宿客の減少などにより売上高が1048万円(▲10.6%)減の8856万円となった。税引き前利益は、▲45万円。

委託料など町からの運営補助金は1147万円。今後引き続き、新規集客のため、観光協会などとの連携強化による観光ルートへの拡充や、来客を売上に結び付けるための受け皿づくりなど企画力・営業力の強化に強められたい。

## (有)さんわ182ステーション



H30年度集計は、百彩館の10月1日から翌年3月31日までを含みます

H19 H27 H28 H29 H30

## (有)油木特産販売百彩館



H30年度集計は4月1日~9月30日まで

H19 H27 H28 H29 H30

## (株)神石高原農業公社



H19 H27 H28 H29 H30

## (株)帝釈峡スコラ



H19 H27 H28 H29 H30

\*表の見方 単位:万円  
上段の数値:総収入  
下段の数値:総費用



## 182ステーションリニューアルの内容は

リニューアルは予算の追加補正と後期の延長が成され本年度中の完成を目指し着工の運びとなった。

実施設計の変更は認められず、ハード部分については設計通りだが売上増に寄与すると考えられる運営面でのソフト部分の計画変更は可能との事である。

リニューアルに関する全容はある程度予想の範囲内にあるが、姿が見えない中での町民の関心度は高く期待と不安が入り混じっている。

あらためて以下につき伺う。

- ①フードコートの全容。
- ②商品の確保は大丈夫か。
- ③新店舗の展開は。
- ④百彩館はどうする。
- ⑤観光協会との連携はどう取り組むのか。

から集荷の利便性を図る事で商品を確保し運営の安定化を目指す。

⑤コンビニ前の売店の中に観光協会の事務所が移転する。情報のやり取りや共有を密にし、今まで以上の連携を強化する。

**木野山** 商品確保には、パイは限られており、加工品製造機械導入への投資など6次産業化への本格的取組みが必要だ。

道の駅とは、町の玄関口でありワンストップで町のあらゆる情報を伝えるコンテンツの宝庫だ。車での旅行者は町の情報を求めて必ず道の駅に立ち寄る。

観光協会にはその役割を充分に担って頂くよう連携を強化すべきた。

第3セクターの会計については、公設民営の部分で「民」の会計は報告されるが、「公」の部分には、建物など固定資産は、役員会計の中で単式で1年償却で終わっており、長期的な費用配分の原則に沿っていない。長期的な経営安定の

ためには期間に費用を配分し回収することが必要だ。

財政法13条の2に反しなければ、病院事業会計のように会計を別にして資金造成を行い、財政安定化を図ったかどうか。

**町長** 考え方は理解できる。

今、町は公会計制度の導入により減価償却資産などの状況は把握している。

第3セクターについては、金額も多くないので、公会計の中で、別に分けて資金の造成を考えていきたい。

## 小中学校生徒の通学時の健康管理は

**木野山** 近年は日差しも強く、児童生徒の通学時における熱中症対策に何か良いアイデアは無いか。

**教育長** 各学校においては、登下校時の熱中症対策として、帽子の着用や水筒を持参させ水分補給するなどの指導を行っている。また小学校では、毎日の集団下校時の集まりにおいて、児童の健康状態を観察し、下校時の留意点など確認している。

**町長** ①フードコートは、カウンターの厨房で料理を提供する。現在のたこ焼きブースは廃止し軽食類販売はフードコート内に集約する。ライメンは販売しない。

売上は地元産の農産物を活用した食品やクラフトビールの販売などで1千万円増の6千万円を目指す。

②販売額はエブリイ、182ステーションともに微増傾向にある。JA福山市の新店舗により販路はさらに拡大す

る。商品確保のため農家の育成や集荷体制の構築についても検討する。

**産業課長** ③野菜の劣化を防ぐため空調に配慮し、壁の色は「カープ色」、陳列は平台、生花コーナーを入り口付近に設置など楽しく買い物ができる店舗を目指す。

外販出荷の予定はない。

**町長** ④年間を通さないと課題は見えないが、地元サポーターズクラブと意見交換しな



令和元年6.10 文化の里 高蓋芸能まつり  
どんぐり幼稚園 園児たち